

東日本大震災に関し、今、私たちのできること

2011年3月17日

神戸教区主教 アンデレ 中村 豊

関係者各位

3月11日(金)、東日本近海で起こった巨大な断層のズレが東日本各地に激震をもたらし、多くの家屋が倒壊し、ライフラインが寸断されました。その直後、断層のズレで誘発された巨大津波が東日本沿岸各地を急襲し、海岸沿いの倉庫や工場、民家、車などを瞬間に押し流し、逃げ遅れた人たちは、なすすべもなく、津波に飲み込まれてしまいました。

大地震・大津波の影響で、福島第一原子力発電所では、原子炉の燃料棒を冷却できず、これに伴う事故が次から次に発生し、関係者は、原子炉を安全な状態に復旧させるための作業を不眠不休でおこなっております。

今回の大震災による犠牲者数は、兵庫県南部に住む私たちが16年前に経験した、阪神・淡路大震災時の約6,500名の倍以上になるのではないかと予測されております。

教会の被害状況ですが、仙台キリスト教会が危険な状態にあり、水戸聖ステパノ教会の鐘楼と祭壇奥の壁が倒れました。下館聖公会では、礼拝堂の壁や天井の一部が崩れ落ち、磯山聖ヨハネ教会は海岸から50mのところであり、おそらく津波で相当な被害を受けたのではないかと予測されますが、未だに連絡がとれておりません。信徒10数名の消息も不明です。郡山聖ペテロ・聖パウロ教会の状況も把握できてはおりません。聖公会の聖職、及び他教派の教職者は全員無事ですが、残念ながら、カトリック教会のカナダ人神父が、震災のショックで亡くなられた、との報告を受けました。

地震・津波によって生き延びることができた人たちや、震災の影響を受けなかった地域の人たちは、家族、友人、知人の安否を必死の思いで確認しておりますが、通信網、交通網が寸断されている状態で、作業は遅々として進みません。教会関係者も同様です。現在のところ、殆どの地域では、被災者救援のため、外部からの人的支援を受け入れる態勢を構築するだけの余裕はないようです。

このようななか、私たちに出来ることは祈ることだけです。阪神・淡路大震災を経験した私たちは、被災地外から救援に駆けつけて来られた人たちによって、どれだけ励ましを受けたでしょうか。それによって、どれだけ私たちの心が癒され、生きる勇気、希望が与えられたでしょうか。神戸の街がこのように復興できたのは、その背後に、多くの人たちの、篤い祈りと支援があったからなのです。

東日本大震災にあたり、別紙、「東日本大震災、わたしたちの祈り」、「東日本大震災の祈り」を作成しました。3月20日(日)に、神戸教区に属するすべての教会・伝道所での主日礼拝で、この祈りを献げていただくよう、お願いいたします。

聖公会関係学校・園・福祉施設におかれましても、集会などで、大震災のために、共に祈っていただくようお願い申し上げます。